

特別企画：遊園地・テーマパーク経営企業の実態調査（2016年決算）

2016年の収入高合計、前年比微増

近畿、中国、四国好調、引き続きインバウンドの取り込み課題

はじめに

待ちに待った夏休み。政府は「キッズウィーク」の検討を発表し、2018年の実施を目指している。「キッズウィーク」に合わせて家族が休めるように企業にも協力を求めるとのことで、旅行需要・観光産業の活性化も期待される。

2017年は4月に名古屋で新たな大型テーマパーク「レゴランド・ジャパン」の開園や、埼玉では7月に「ムーミン」のテーマパーク「Metsä（メツァ）」が着工し、盛り上がりを見せている。一方、福岡の「スペースワールド」は2017年末での閉園を発表し、話題となった。

2016年の訪日外客数は過去最高を記録していた前年を大幅に上回り、2403万9700人（前年比21.8%増）となったものの（日本政府観光局<JNTO>より）、遊園地・テーマパークの入場者数は前年比1.3%減の8039万2414人となり（経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」より）、引き続きインバウンドの取り込みが課題となっている様子がうかがえる。

帝国データバンクは、2017年6月末時点の企業概要データベース「COSMOS2」（147万社収録）および公開情報から、遊園地・テーマパーク経営企業のうち2014～2016年（1～12月期決算）の3期連続で収入高が判明した155社を抽出して分析した。前回調査は2016年7月。

- ◇ 「遊園地・テーマパーク経営企業」とは、原則として収入高のうち、遊園地・テーマパークおよび動物園・植物園・水族館経営による収入が最も大きい企業
- ◇ 業績は単体数値で推定値も含む。損益は当期純損益

調査結果（要旨）

1. 2016年の155社の収入高合計は前年比1.9%増の約8360億500万円。増収企業は90社で全体の半数以上（58.1%）
2. 155社のうち2期連続で損益が判明した94社を見ると、2016年の黒字企業は76社で全体の8割超
3. 収入高規模別に見ると、2016年の「1～10億円未満」と「1億円未満」が合わせて全体の62.6%を占め、引き続き多数の中小規模企業が存在している
4. 地域別では、10地域中8地域で増収。「四国」（前年比16.9%増）、「近畿」（同13.3%増）で2ケタの伸び率
5. 2016年収入高トップの（株）オリエンタルランドは前年比0.7%減、2位の（株）ユー・エス・ジェイは同8.2%増

1. 収入高合計、1.9%の微増

2016年の155社の収入高合計は約8360億500万円で、前年比1.9%の微増となった。

2016年に増収となった企業は155社中90社（構成比58.1%）となり、増収企業の割合は前年から5.8ポイント増加した。減収となった企業は28社（同18.1%）で、減収企業の割合は前年から6.4ポイント減少した。

	収入高合計 (百万円)	前年比 増減率 (%)
2015年	820,338	1.0
2016年	836,005	1.9

	2015年		2016年	
	社数	構成比 (%)	社数	構成比 (%)
増収	81	52.3	90	58.1
減収	38	24.5	28	18.1
横ばい	36	23.2	37	23.9
合計	155	100.0	155	100.0

2. 黒字企業減少も、依然として8割超

155社のうち2期連続で損益が判明した94社を見ると、2016年の黒字企業は76社（構成比80.9%）で、前年から3社減少した。このうち2期連続の黒字企業は71社（同75.5%）となった。

他方、赤字企業は前年から3社増加したものの、2期連続で赤字となった企業は10社にとどまった。

損益比較	2015年		2016年	
	社数	構成比 (%)	社数	構成比 (%)
黒字	79	84.0	76	80.9
2期連続			71	75.5
赤字	15	16.0	18	19.1
2期連続			10	10.6
合計	94	100.0	94	100.0

※2期連続で損益が判明した94社が対象

3. 10億円未満の企業が62.6%

収入高規模別に見ると、2016年の「1～10億円未満」と「1億円未満」の社数の合計は155社中97社で全体の62.6%を占め、引き続き多数の中小規模の企業が存在していることがうかがえる。全体的に増収傾向であるが、特に100億円以上の大規模企業が増収傾向にある。

	社数	2015年						社数	2016年					
		増収	構成比 (%)	減収	構成比 (%)	横ばい	構成比 (%)		増収	構成比 (%)	減収	構成比 (%)	横ばい	構成比 (%)
500億円以上	2	0	0.0	2	100.0	0	0.0	2	1	50.0	1	50.0	0	0.0
100～500億円未満	7	4	57.1	3	42.9	0	0.0	8	7	87.5	1	12.5	0	0.0
50～100億円未満	8	7	87.5	1	12.5	0	0.0	9	6	66.7	2	22.2	1	11.1
10～50億円未満	38	25	65.8	6	15.8	7	18.4	39	24	61.5	9	23.1	6	15.4
1～10億円未満	77	41	53.2	22	28.6	14	18.2	75	49	65.3	12	16.0	14	18.7
1億円未満	23	4	17.4	4	17.4	15	65.2	22	3	13.6	3	13.6	16	72.7
合計	155	81	52.3	38	24.5	36	23.2	155	90	58.1	28	18.1	37	23.9

4. 近畿、中国、四国が好調

地域別では、10地域中8地域が増収。伸び率トップは「四国」（前年比16.9%増）、次いで「近畿」で2ケタの伸び率となった。特に「近畿」では(株)海遊館が開業25周年に伴う販促活動が奏功したことや新たな施設の「NIFREL」が好調なこと、さらにはインバウンド需要の効果も加わり、大幅増収（同44.0%増）となった。一方、「九州」は前年比2.1%減、次いで「東北」が同1.8%減となった。

収入高合計のトップは、(株)オリエンタルランドが全体の92.2%を占めている「関東（東京除く）」で約4299億7800万円。次いで「東京」が約1479億1500万円となり、上記2地域の収入高合計は約5778億9300万円と全地域の69.1%を占めた。

地域別	2015年 収入高 合計 (百万円)	2016年 収入高 合計 (百万円)	前年比 増減率 (%)	社数	2016年		
					増収	減収	横ばい
北海道	18,177	18,706	2.9	10	7	1	2
東北	7,253	7,119	▲1.8	12	7	1	4
関東(東京除く)	427,688	429,978	0.5	22	10	4	8
東京	143,722	147,915	2.9	11	6	2	3
北陸	3,020	3,051	1.0	7	3	3	1
中部	106,886	110,850	3.7	24	19	4	1
近畿	32,560	36,901	13.3	17	13	3	1
中国	9,222	9,771	6.0	11	7	0	4
四国	7,368	8,612	16.9	10	6	0	4
九州	64,442	63,102	▲2.1	31	12	10	9
合計	820,338	836,005	1.9	155	90	28	37

2016年主要テーマパーク（地域別）

地域	商号 <テーマパーク名>	収入高 (百万円)	前年比 増減率(%)	地域	商号 <テーマパーク名>	収入高 (百万円)	前年比 増減率
北海道	加森観光(株) <ルスツリゾート>	15,677	0.2	北陸・中部	富士急行(株) <富士急ハイランドほか>	27,449	4.7
	(株)北海道マリパーク <登別マリパークニクス>	1,037	26.0		長島観光開発(株) <ナガシマリゾート>	25,851	2.9
	(株)登別伊達時代村 <登別伊達時代村>	779	31.8		(株)モビリティランド <鈴鹿サーキットほか>	25,769	2.7
	(公財)ふくしま海洋科学館 <アクアマリンふくしま>	1,900	0.0		(株)ユー・エス・ジェイ ※3 <ユニバーサル・スタジオ・ジャパン>	150,000	8.2
東北	(株)マリンピア ※1 <マリンピア松島水族館ほか>	1,102	▲18.9	近畿	(株)海遊館 <海遊館ほか>	8,424	44.0
	紅久(株) <八木山ベニーランド>	645	1.5		(株)アワーズ <アドベンチャーワールド>	7,862	8.5
	(株)オリエンタルランド <東京ディズニーリゾート>	396,262	▲0.7		(株)レオマユニティー <NEWレオマワールド>	5,200	25.7
関東 (東京除く)	西武鉄道(株) ※2 <西武園ゆうえんち、としまえん>	21,724	0.9	中国・四国	ツネインシLR(株) <みろくの里>	4,477	6.8
	(株)横浜八景島 <横浜・八景島シーパラダイスほか>	11,855	53.5		(公財)広島市みどり生きもの協会 <安佐動物公園ほか>	1,660	8.6
	(株)東京ドーム <東京ドームシティ>	59,679	1.0		九州	ハウステンボス(株) <ハウステンボス>	26,632
(株)ナムコ <ナムコ・ナンジャタウンほか>	43,756	1.5	(一財)沖縄美ら島財団 <沖縄美ら海水族館ほか>	9,845		0.0	
(株)よみうりランド <よみうりランド>	17,737	9.6	グリーンランドリゾート(株) <グリーンランド>	4,184		▲15.3	

※1 (株)マリンピアのマリンピア松島水族館は2015年5月をもって閉館している

※2 (株)西武ホールディングスが開示した決算短値(連結)の沿線レジャー業の収入高を引用

※3 2016年4月に旧(株)ユー・エス・ジェイを合併しており、2016年収入高は推定値となる(主要テーマパーク、ランキング表のみ掲載)

5. 収入高上位 2 社、USJ好調で東西明暗分かれる

トップは「東京ディズニーランド・シー」を運営する(株)オリエンタルランド

東京ディズニーランドでは2015年7月に新アトラクション「スティッチ・エンカウンター」がオープン。2014年5月にスタートし、2年目を迎えていた「ワンス・アポン・ア・タイム」やその他季節ごとのスペシャルイベントを開催。ディズニーシーでも同様に「クリスマス・ウィッシュ」など季節ごとのスペシャルイベントのほか、人気キャラクターのダッフィーをテーマとした「スウィート・ダッフィー」などを開催。2パーク合計の2015年度の入場者数は3019万1000人と前年から3.8%減少、収入高は約3962億6200万円（前年比0.7%減）で、2年連続の減収となった。

2位は「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」を運営する(株)ユー・エス・ジェイ

2年目を迎えてもなお人気の高いアトラクション「The Wizarding World of Harry Potter™」や季節イベントの「ユニバーサル・サプライズ・ハロウィーン（ハロウィーン・ホラー・ナイト）」（9月）の開催が好調だった。さらに2016年3月には開園15周年の目玉の一つとして新アトラクション「ザ・フライング・ダイナソー」がオープンした。次々と新たな施策を打ち出しリピーターの獲得を進め、2015年度の入場者数は1390万人と過去最高だった2014年度を120万人上回った。2016年の収入高は約1500億円で、前年を8.2%上回った。

2016年収入高ランキング

順位 (前年順位)	商号	テーマパーク名	本社 所在地	決算月	2016年 収入高 (百万円)		2017年 収入高 (百万円)		
					前年比 増減率 (%)	構成比 (%) ※1	前年比 増減率 (%) ※2	前年比 増減率 (%)	
1 (1)	(株)オリエンタルランド	東京ディズニーリゾート	千葉県	3	396,262	▲ 0.7	47.4	406,513	2.6
2 (2)	(株)ユー・エス・ジェイ※3	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	大阪府	3	150,000	8.2	-	165,838	10.6
3 (3)	(株)東京ドーム	東京ドームシティ	東京都	1	59,679	1.0	7.1	61,857	3.6
4 (4)	(株)ナムコ	ナムコ・ナンジャタウンほか	東京都	3	43,756	1.5	5.2	47,246	8.0
5 (6)	富士急行(株)	富士急ハイランドほか	山梨県	3	27,449	4.7	3.3	27,550	0.4
6 (5)	ハウステンボス(株)	ハウステンボス	長崎県	9	26,632	▲ 3.5	3.2	-	-
7 (7)	長島観光開発(株)	ナガシマリゾート	三重県	2	25,851	2.9	3.1	26,047	0.8
8 (8)	(株)モビリティランド	鈴鹿サーキットほか	三重県	3	25,769	2.7	3.1	-	-
9 (9)	西武鉄道(株)※4	西武園ゆうえんち、としまえん	埼玉県	3	21,724	0.9	-	20,798	▲ 4.3
10 (10)	(株)よみうりランド	よみうりランド	東京都	3	17,737	9.6	2.1	20,165	13.7
11 (11)	加藤観光(株)	ルスツリゾート	北海道	3	15,677	0.2	1.9	16,000	2.1
12 (12)	常磐興産(株)※5	スバリゾートハワイアンズ	福島県	3	13,462	2.5	-	12,671	▲ 5.9
13 (16)	(株)横浜八景島	横浜・八景島シーパラダイス	神奈川県	3	11,855	53.5	1.4	-	-
14 (15)	(一財)沖繩美ら島財団	沖繩美ら海水族館ほか	沖繩県	3	9,845	0.0	1.2	-	-
15 (14)	近鉄レジャーサービス(株)	志摩スペイン村ほか	三重県	3	9,000	▲ 0.4	1.1	-	-
16 (13)	(公財)東京動物園協会	恩賜上野動物園ほか	東京都	3	8,699	▲ 3.9	1.0	-	-
17 (20)	(株)海遊館	海遊館ほか	大阪府	3	8,424	44.0	1.0	-	-
18 (17)	(株)アワーズ	アドベンチャーワールド	大阪府	5	7,862	8.5	0.9	-	-
19 (19)	(株)サンリオエンターテイメント	サンリオピューロランド	東京都	3	7,520	19.4	0.9	-	-
20 (18)	泉陽興業(株)	よこはまコスモワールドほか	大阪府	4	7,287	5.9	0.9	-	-

※1 2016年収入高の構成比は全155社の収入高合計に対する比率

※2 2017年収入高は判明分のみ掲載

※3 2016年4月に旧(株)ユー・エス・ジェイを合併しており、2016年収入高は推定値となる（主要テーマパーク、ランキング表のみ掲載）

※4 (株)西武ホールディングスが開示した決算短信（連結）の沿線レジャー業の収入高を引用

※5 常磐興産(株)が開示した決算短信の観光事業部門の収入高を引用

6. まとめ

今回の調査では、2016年の収入高合計は約8360億500万円で前年比1.9%の増加となった。収入高規模別の社数は、「1～10億円未満」と「1億円未満」の合計が全体の62.6%を占め、引き続き少数の大企業と多数の中小規模企業が混在しており、収入高の格差が大きいことが分かる。ただ、増収企業の割合は前年から5.8ポイント増加、減収企業の割合は前年から6.4ポイント減少していることから業況が好調なことがうかがえる。

大手2社は、引き続き積極的な設備投資を進める。2016年は東京ディズニーシーとユニバーサル・スタジオ・ジャパンが15周年を迎えたことから大規模なイベントを開催していた。

(株)オリエンタルランドは、2016年4月に入園料を価格改定したことや東京ディズニーシー15周年関連グッズが好調な影響もあり、来園者数は微減となったもののゲスト1人あたりの売上高が前年を上回り、今後も増加傾向で推移していくものとみられる。約750億円を投じるとされる「美女と野獣」の新エリアなど2020年までの新施設の予定も発表しており、さらなる期待がされている。また新たな顧客層として、40代以上の世帯やシニア層、増加中のインバウンド需要を取り込んでいくと同時に、既存顧客のリピート率の向上を目指す。

(株)ユー・エス・ジェイは、2017年6月に600億円超を投じて「SUPER NINTENDO WORLD™」を2020年の東京オリンピックまでにオープンを目指すとして発表した。任天堂の世界的人気ゲーム「スーパーマリオブラザーズ」の「マリオ」など人気キャラクターが登場する。2016年リオデジャネイロオリンピックの閉会式で安倍首相が「マリオ」に扮して登場し、話題となったことも記憶に新しく、今後インバウンドを取り込んでいくなかで一つの目玉になるだろう。

収入高上位の企業は、2020年の東京オリンピックを見据えてインバウンドを取り込む施策を打ち出している。4月にオープンしたレゴランドや愛知万博の会場に「ジブリパーク」を建設する構想がある中部地区では、集客競争に拍車がかかりそうだ。こうしたなかで中小規模の企業は独自性、地域性を発揮し、地方に目が向きつつある訪日外国人客を取り込むためにも宿泊施設や旅行会社などと提携していくことも求められる。

(内容に関する問い合わせ先)

(株)帝国データバンク 東京支社情報部 担当：高田 一樹

TEL:03-5919-9342 FAX:03-5919-9348

MAIL:kazuki.takada@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。